

ELPAの教育改革提言！

～大学入試制度改革、新学習指導要領への処方箋～

2019年6月29日

英語運用能力評価協会

本日のテーマ

- ・大学共通テスト(入試改革)
- ・新学習指導要領
- ・学校ICT(教育の情報化)

評価

- ・読解力(言語・数理)
- ・4技能(スピーキング評価)
- ・文章理解(読みの速さ)
- ・コンピュータテスト

<キーワード>

入試改革

読解力

CEFR

ICT

スピーキング

リーディング

コンピュータテスト

IRT

本日のスケジュール

<午前>

10:10～11:30 読解力:リーディングリテラシー

<午後>

12:30～14:00 英語スピーキング力養成と評価

14:00～15:00 英語リーディング 速読

15:00～16:30 コンピュータテスト(CBT)

2019年から2024年までスケジュール

大学入試改革と次期学習指導要領実施スケジュール

年度・学年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新テスト	共通テスト フレテスト施行		現センター廃止 共通テスト 先行実施				共通テスト 本格実施
時期学習 指導要領	← 小学移行措置 (英語等) →		← 小学 次期学習指導要領 全面实施 →		← 高1 次期学習指導要領 全面实施 →		
		← 中学校移行措置 (英語等) →		← 中学 次期学習指導要領 全面实施 →		← 高2 全面实施 →	
新高1	高1	高2	高3				← 高3 全面实施 →
新中3	中3	高1	高2	高3			
新中2		中3	高1	高2	高3		
新中1			中3	高1	高2	高3	
新小6	小6 < 小学移行措置 >	中1 < 中学移行措置 (英語等) >	中2	中3	高1	高2	高3 ★
新小5	小5 < 小学移行措置 (英語等) >	小6	中1 < 中学移行措置 >	中2	中3	高1	高2

←→ 基礎診断 3科目 (国語総合・数学Ⅰ・コミュ英語Ⅰ)
学力調査テスト高校版の位置づけ

←→ 基礎診断 次期学習指導要領対応 (必修科目5科予定)
AO入試・推薦入試への活用の可能性あり

↔ 共通テスト ペーパー式で記述式 (国語・数学) と
マーク式、現行センターと同じ1月実施

★ 共通テスト 本格導入 (CBT-IRT)

年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
教育改革の内容	大学入試改革	移行期間 ←	2020年1月実施を最後に「センター試験」廃止	新テスト「大学入学共通テスト」(2021年1月より)				「大学入学共通テスト」本格実施(外部英語試験一本化・CBT導入予定)
	新学習指導要領	検討・告示	移行期間 ←			高1実施	高2実施	高3実施
		移行期間 ←		全面実施				
		移行期間 ←		全面実施				
学年	現高校生	高3	大1	大2	大3	大4	大卒1年	大卒2年
		高2	高3	大1	大2	大3	大4	大卒1年
		高1	高2	高3 ●	大1	大2	大3	大4
	現中学生	中3	高1	高2	高3 ●	大1	大2	大3
		中2	中3	高1	高2	高3 ●	大1	大2
		中1	中2	中3	高1	高2	高3 ●	大1
	現小学生	小6	中1	中2	中3 ●	高1 ●	高2 ●	高3 ● ●
		小5	小6	中1	中2 ●	中3 ●	高1 ●	高2 ●
		小4	小5	小6 ●	中1 ●	中2 ●	中3 ●	高1 ●
		小3	小4	小5 ●	小6 ●	中1 ●	中2 ●	中3 ●
		小2	小3	小4 ●	小5 ●	小6 ●	中1 ●	中2 ●
		小1	小2	小3 ●	小4 ●	小5 ●	小6 ●	中1 ●

学校のICT活用遅れ、解消へ一歩 文科省が工程表

小中高校などのICT活用の工程表	
児童生徒が1人1台、パソコンやタブレットを利用できる環境整備	2025年度
学術ネットワーク「SINET」を学校に開放し、本格運用	22年度
「教育ビッグデータ」整備に向け、テスト結果などの情報収集法を決定	20年度
先端技術を使った教育のあり方についてガイドライン策定	20年度

- 工程表では教育用パソコンの安価品を供給してもらうよう民間に協力を要請し、私物のスマートフォンも学校で使う。これらによって25年度までに「1人1台」を目指す。全国の大学を結ぶ超高速の学術ネットワーク「SINET(サイネット)」を学校に開放し、22年度に本格運用する。
- 定期テストやドリルの解答状況、デジタル教科書の参照履歴、出欠や健康状態といった子供の情報を集めた「教育ビッグデータ」も整備する。人工知能(AI)で分析し、子供の興味関心や得意、不得意などに応じてドリルの問題を出したり、より深く学べる教材を提供したりする。20年度にデータの収集方法などの結論を出す。

- すでに学習塾などでは、AIを活用した教材が導入されている。タブレットで問題を出し、解けなかった場合はAIが原因を分析し、理解が足りない項目を追加で教えるといった「オーダーメイド教育」が広がる。
- 京都大の緒方広明教授(教育情報学)は教育ビッグデータの活用により、「『学力が上がるクラスの数』『指導方法による学力の伸びの差』なども分析できる可能性がある」と指摘する。現在の成績から、将来の学力を予測できるようになる可能性もあるという。
- 文科省はデジタル教科書や仮想現実(VR)、拡張現実(AR)なども創造性を伸ばすために活用する。デジタルコンテンツや映像で理解を助け、興味ある分野をより深く学ばせる。最先端の知見や多様な人材に触れられる遠隔教育も広げる。

- 2019年6月25日 日本経済新聞より

大学入試に関わる変化

- 全国学力調査(2019年中学校英語話すこと)
- 外部試験利用(2020年共通テスト)
- 大学入学共通テスト(国語・数学記述問題)
- 大学入学共通テスト(2024年 共通テスト英語廃止・民間4技能試験)※予定
- 大学入学共通テストCBT化※予定

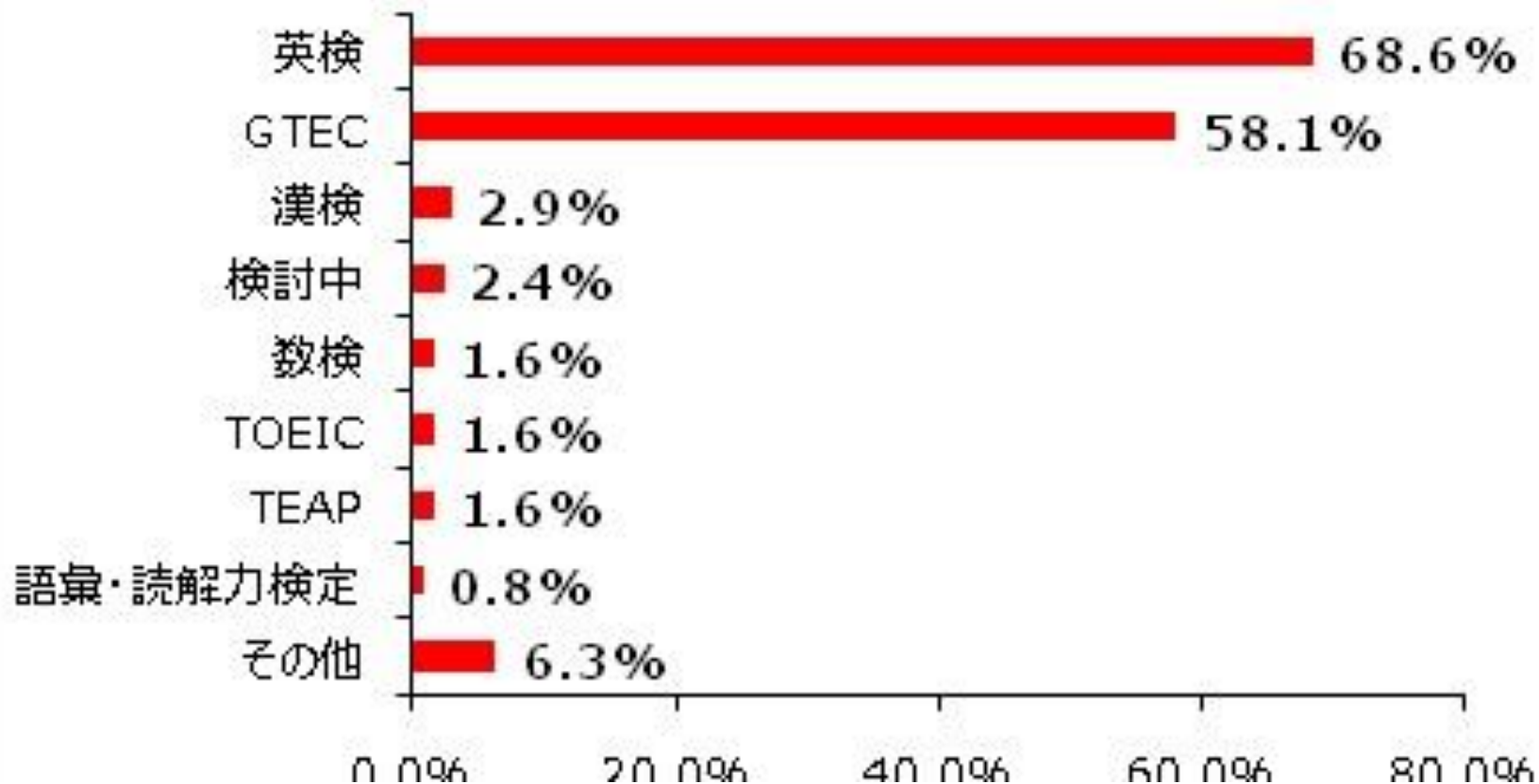
平成31年度全国学力・学習状況調査

- 平成31年度全国学力・学習状況調査の
中学校英語「話すこと」調査に向けて

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/__icsFiles/afieldfile/2018/10/09/1409973_001.pdf

外部試験

③ 民間英語検定・資格試験



大学入試英語成績提供システム参加要件を満たしていることが確認された英語の民間資格・検定試験の一覧（アルファベット・50音順）

資格・検定試験実施主体名	資格・検定試験名							
ケンブリッジ大学英語検定機構	ケンブリッジ英語検定				C2 Proficiency			
					C1 Advanced			
					B2 First for Schools			
					B2 First			
					B1 Preliminary for Schools			
					B1 Preliminary			
					A2 Key for Schools			
					A2 Key			
Educational Testing Service	TOEFL IBTテスト							
IDP・IELTS Australia ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System (IELTS)	アカデミック・モジュール						
国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC Listening & Reading Test, TOEIC Speaking & Writing Tests							
ベネッセコーポレーション	GTEC				Advanced			
					Basic			
					Core			
					CBT			
日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes (TEAP)							
	Test of English for Academic Purposes Computer Based Test (TEAPCBT)							
	実用英語技能検定 (英検)				1級	公開会場実施		
					準1級	公開会場実施	1日完結型	4技能CBT
					2級	公開会場実施	1日完結型	4技能CBT
					準2級	公開会場実施	1日完結型	4技能CBT
3級	公開会場実施	1日完結型	4技能CBT					

※大学入試センター「大学入試英語成績提供システム参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験」を参考に編集部が作成

(大学入試改革)2021年度入学者選抜(一般選抜)における国立大学の英語資格・検定試験の活用予定の公表状況について～82大学中79大学が英語資格・検定試験を活用～

- http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1417592.htm
- http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/05/31/1417592_001_1.pdf
-
- 2021年私立大学入試入学者選抜試験
- http://www2.sundai.ac.jp/news/2021news/2021_shiritsu_senbatsu.pdf

英語外部検定利用入試って何？ 英検[®]2級は80点扱い、準1級だと満点に?! 利用大学が急増中！

得点換算

**英検
準2級** →

を持っていると

大学独自の英語試験「70点」に換算。
英検2級だと80点、準1級だと
100点など、さらに高い得点に！
大学独自の英語試験も受験でき、よ
い方の得点で合否判定してくれる大
学もある！



**英検
準2級** →

を持っていないと

大学独自の
英語試験を受験し、
その得点で合否判定。



英語力のものさし「CEFR」の可能性とリスク

- 様々な英語試験が、それぞれの何レベル(もしくはスコア)がCEFRの何レベルに相当するという関連性を示すようになりました。しかし、これには少々首をかしげる点があります。なぜなら、CEFR自体は判定基準を提供しているだけで公式のテストを実施しておらず、民間の英語試験はいわば独自の解釈で、「後付け」でCEFRとの関連付けを行っているからです。これは、「後出しジャンケン」みたいなもので、どこまで本当にCEFRのレベルと適合しているのかについて疑問が残ります。小規模でも、CEFRが公式テストを作成して実施し、試験問題を開示して、その結果を数値で示してくれると、この辺りの問題はかなり整理されるはずですが、元々異なる目的、異なる基準で作成されたテストをCEFRに関連付けるのにはかなり無理があると予想されます。(日経ビジネス11月8日)
- <https://business.nikkeibp.co.jp/atcl/skillup/15/093000004/110800070/>

【英語外部認定試験についての意見】

- ・英語外部試験の導入について、いまだ国や入試センター、各大学で調整しきれていないことが多く、このまま進むことには反対意見が多い。
- ・それぞれの目的がある検定が一律にCEFRによって並べられるものなのか疑問。
- ・様々な検定を活用することにより、様々な不平等が発生すると予想される。そもそも高校英語と質の異なる検定も認可されている。
- ・英語検定試験の活用は地方都市の受験生に絶対的に不利。これをこの計画通り実施するのは断固反対である。
- ・民間の英語資格を公的な性質の大学入試に使う点で公平さに問題がある。また、受検するために保護者の金銭的負担がかなり増える。
- ・各大学の対策が分かれると思うが、結果的に生徒の負担がかなり増すことが大いに懸念される。
- ・検定を受けるたびに検定料がかかる。高校1年生で英検を受けると年3回。3年生の6月まで受けると35,000円以上の費用になる。この負担を減らすことも考えていかなければ一部の人のみが受けられるものになってしまうのではないか。奨学金のことで話題になっていることを考えると、もっと取り上げて欲しい内容だと思う。
- ・英語4技能の検定日程によっては部活の大会や学校行事を見直さないといけない可能性があることに対して不安。
- ・外部検定活用の在り方について、進路選択に関する被害学年と呼ばれる世代が増えてきたことが少しは避けなければならぬ。

- 英語の外部試験の導入に関して寄せられた、「地域差・経済面での差が出ないか心配」
- 「民間の英語資格を公的な性質の大学入試に使う点で公平さに問題がある。また、受検するために保護者の金銭的負担がかなり増える」
- 「英語4技能の検定日程によっては部活の大会や学校行事を見直さないといけない可能性がある」

- 共通テストでは英語の「読む・聞く・書く・話す」の4技能を評価するため同センターが認めた民間検定試験も導入する。受験生は民間試験を4～12月の間、2回まで受けられる。23年度までは同センターによる従来型のマーク式試験と併存し、24年度以降は民間試験に一本化する方向だ。

2024年 大学入学共通テスト

- 英語2技能廃止
- 英語外部テスト 4技能
- 情報教科テスト

CBT

- 2024年 マーク式テスト廃止コンピュータによるテスト
- CBT
- IRT